

下肢静脈瘤とは

1) 下肢静脈瘤になる原因とは

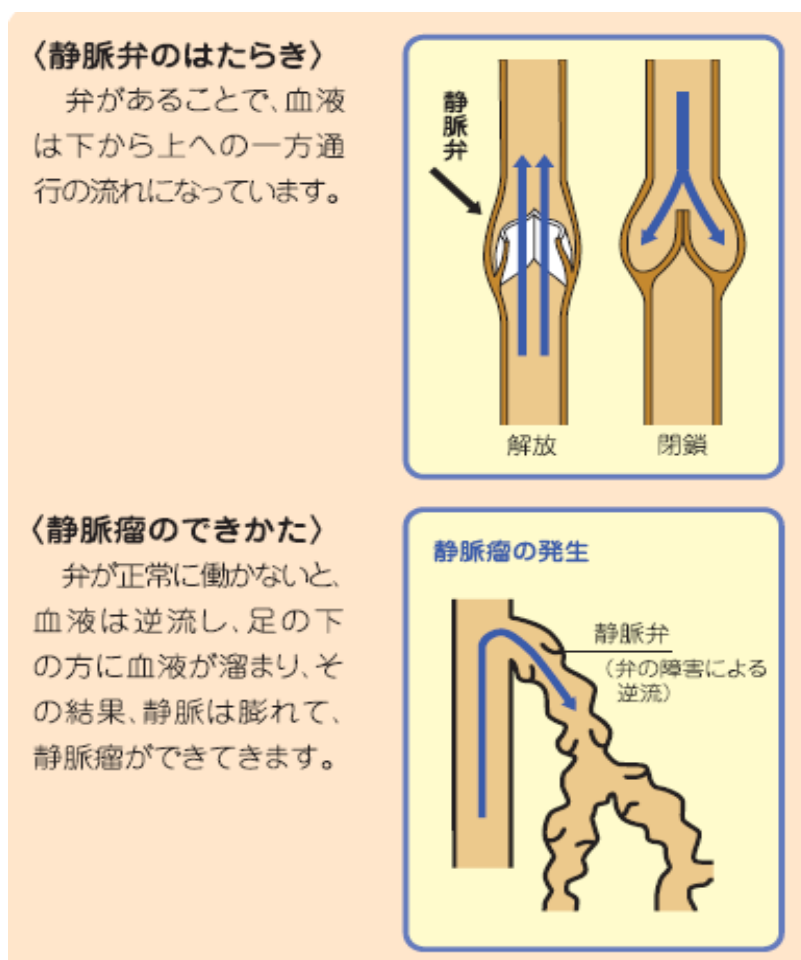
下肢静脈が過度に拡張して、逆流防止の静脈弁が壊れる



心臓まで戻るはずの静脈の血液が逆流する



一定の箇所では血液が停滞して溜まることにより、静脈が拡張・蛇行したり、膨らんで瘤状になり下肢静脈瘤となる。



2) 良く見られる症状(合併症)

- ◆足の血管が浮き出て見える

- ◆ 静脈に沿って炎症を起こし痛む
- ◆ 足がむくむ、だるい、重い、疲れやすい
- ◆ 熱感があったり、足がつる（こむらがえり）
- ◆ 足がかゆい、治りにくい湿疹が出る
- ◆ 皮膚が黒ずんで見える
- ◆ 足に潰瘍ができる（皮膚が破れて出血がある）
- ◆ 皮膚が薄く、弱くなり、傷が治りにくい

3) 静脈瘤の症状

- ◆ 血管が瘤状に隆起する。
- ◆ 血管が網目状に見える。
- ◆ 血管がクモの巣状に見える。



【よくみられる下肢静脈瘤の症例1】



【よくみられる下肢静脈瘤の症例2】

4) 治療方法

◆弾性ストッキング

通常のストッキングより強く圧迫する。また下記の硬化療法やストリッピング術の後にも使用されます。

◆硬化療法

表在の血管に硬化剤を注入して血管を詰まらせて治療する方法（細い血管のみの適応）

◆不全交通枝結紮

血液の逆流の強い患者さんに対して、表在静脈の結紮手術を行う。皮膚に2 cm以下の切開を加え、静脈を縛って血液の逆流を止める。局所麻酔で施行し、所要時間は1か所、約10分程度。

◆ストリッピング手術

結紮手術と同様、皮膚切開で足の太伏在静脈、及び小伏在静脈を引き抜きますが他院では血管全体を引き抜いてしまうため全身麻酔または腰椎麻酔で入院を必要とすることが多いのですが

当院では局所麻酔下に行うので**日帰り**で行っています。

5) 静脈瘤の予防方法

◆夜寝るときは、クッションやタオルなどを利用し足を高くして休みましょう。

◆長時間の立ち仕事は避け、1時間に5分～10分は、足を心臓より高くして休息しましょう。無理な場合は、足踏みや歩き回って筋肉を動かしてください。

◆ささいな掻き傷・虫刺されが色素沈着、潰瘍の原因になります。静脈瘤がある場合は、清潔にし、外傷を防ぎましょう。

◆体重コントロールによって、静脈の圧迫が軽減されます。適正体重維持に心がけましょう。

しかし一旦静脈瘤になると自然治癒は無いため手術などが必要になることが多いと思われます。まずは診察を受けましょう。